

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【植竹小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的には、令和5年度のさいたま市学習状況調査の自校結果より、本校児童の基礎的・基本的な「知識・技能」の定着を図ることができた。しかし、国語の「文中の主語・述語の関係の理解」については、平均正答率が他の設問よりもわずかに低い傾向が見られた。国語の学習活動だけでなく、他の学習活動や全教育活動において、児童が主語・述語の関係を意識できるような機会を意図的に設定していきたい。
思考・判断・表現	算数の変化と関係、データ活用について課題がみられた。各教科の学習活動において、グラフ等の資料を用いる際、「誰が」「どのような視点で」などに注目させることにより、児童が必要なデータを正しく取捨選択できるような発問等を工夫し、資料の見方を高めていけるようにしていきたい。今後も、各学習活動において、自分の思いや考えを自分の言葉で表現できるような機会を意図的に設定していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問事項において、肯定的な回答の割合は目標値を上回った。残り約10%の児童についても、児童の実態に応じた手だてを行い、児童が主体的に取り組めるような学習活動の展開を図っていく。今後もICT機器を有効に活用した学習活動の工夫を図っていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」において、自校と市の平均正答率の差を令和4年度より0.1pt向上させる。	⇒ 基礎基本の定着を図るため、これまでのドリルの活用に加え、タブレットの「ドリルパーク」等を積極的に活用し、漢字や計算等の反復・習熟を行う。併せて、全教育活動において、「主語・述語」の関係の理解の定着を図っていく。
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」において、自校と市の平均正答率の差を令和4年度より0.1pt向上させる。	⇒ 授業の質の向上を図るため、高学年の完全教科担任制、中学年の一部交換授業による教員の専門性を生かした授業を展開し、児童が自分の考えをもち、自分の言葉で表現できるような学習場面を設定する。資料の見方を高められるような学習活動を積極的に取り入れていく。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問事項において、肯定的な回答の割合を85%以上にする。	⇒ 1単位時間の授業の流れをパターン化するなど、児童が見通しをもって学習活動に取り組めるようにする。また、児童の感想や疑問をもとにした課題設定や授業を展開していく。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査において、市の平均正答率と比較すると、概ね満足できる結果となった。自校と市の平均正答率の差がR4年度調査と比較し、国語は-0.2pt、算数は-0.8ptであり、目標を達成することができなかった。	C
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査において、自校と市の平均正答率の差がR4年度調査と比較し、全体で+1.2ptであった。	A
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の質問事項「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」において、肯定的な回答割合が92.9%となった。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	「知識・技能」において、国語・算数とも概ね満足できる結果となっている。国語の「文章の種類とその特徴についての理解」について課題がみられる。また、算数の「一の位が0の二つの2位数についての乗法の計算」に課題がみられる。
思考・判断・表現	算数の「数と計算」「変化と関係」領域において、概ね満足できる結果となっている。一方で「図形」領域において、「理由を言葉や数を用いて記述すること」に課題がみられる。国語の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」に課題がみられる。特に「目的や意図に応じ、話の内容をとらえ、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること」について課題がみられ、無解答率も高い。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は94%であった。今後も、児童の感想や疑問をもとにした課題設定や学習活動の展開に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	・国語、算数ともに市の平均正答率とほぼ同等の出来であった。 ・国語の「話すこと・聞くこと」の問題において無解答率が高い傾向にあったが、最後の問題であるため時間が足りなかったことも考えられる。 ・算数の「測定」の問題において無解答率が高い傾向にあったが、これも最終問題に近づくにつれて無解答率が高く、時間の足りなさによるものとも考えられる。	小4	・国語・算数とも、どの観点においても平均以上かほぼ同等と十分満足いく結果となった。 ・書くことについては、無解答率が昨年よりも低くなり、研修の成果が表れている。 ・国語の無解答率が低かった反面、算数では無解答率は後半に行くほど高まっており、特に7問目以降に増えている。問題を解く際の時間配分ができていないこと、問題慣れていないことが理由として考えられる。
小5	・国語、算数、社会において市の平均正答率と比較し、満足いく結果となった。 ・「数と計算」領域において、複数の数量から必要な数量を選び立式することに課題がみられる。 ・理科の「エネルギー」を柱とする領域において、正答率が低かった。	小6	・さいたま市学習状況調査の自校結果より、本校児童の「知識・技能」の正答率は市の平均正答率を上回っている。分数の乗法の計算の正答率は高かったが、分数の除法の計算は情報と比較し正答率が低かった。 ・国語の「文中の主語と述語の関係」の正答率が25%と低かった。他教科での学習活動において、児童が主語・述語の関係を意識できるような機会を意図的に設定していきたい。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果において、無解答率が高かった。これを受け、児童が自分の考えをまとめるだけでなく、考えの過程を意識し、筋道立てて表現していけるような学習活動を展開していく。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし